

講演 3

「委員会活動から4年生の学年飼育へ」

西東京私立保谷第二小学校教諭 山崎京子

ただいま紹介いただきました、西東京私立保谷第二小学校 山崎です。よろしくお願ひいたします。本校では、チャボとウサギを、飼育委員活動を中心に飼っていました。それが、昨年度から4年生の学年飼育という形になり、獣医師さんとの連携で、とても意義のある教育活動を行っています。このことについての実践をお話しします。

獣医師さんとの連携を除けば、あとは、ごくありふれた公立小学校の一例ですので、参考にさせていただけるのではないかと思います。お手元の資料にしたがって、話を進めさせていただきます。

（6年間のうち、一度は小動物に触れる体験を）

まず、なぜ学年飼育に移行していったのかということについてお話しいたします。私どもの学校でも、飼育委員会がずっと存続していましたが、だんだん学級数が減ってきて、二十数名の児童で毎日の当番や土日や長期休業日を取り切ることがたいへんになったということが理由の一つです。もう一つの理由は、中にはとても動物好きの児童もいたのですが、仕方なく飼育委員になった児童や、進んで飼育委員会の活動ができない児童がいたり、飼育委員会担当の先生に負担を追わせることが多くなったということです。このような理由から、本校では、4年生の学年飼育に切り替えることになりました。校長先生も子どもの理解が深い方で、獣医師さんとの連携で、校長室にモルモットを飼ったりされたこともあって、そこで子どもたちがとても癒されている実態がありました。そんなことから、6年間のうち、一度は小動物に触れる体験の大切さを私たちが認識し、さらに、発達段階もふまえた上で、今年から4年生の飼育に切り替えようということになりました。

私自身も、4月になって、4年生の担任発表で担任になるとわかったときに、職員みんなで決めた割には、子どもたちのことより、飼育をやらなければいけないという負担感を正直もちましたし、私が受け持っている間に死なせてはいけないという気持ちになりました。担任は3人だったんですが、皆同様の気持ちを抱いていたようです。ただ、主任の先生が、これまで飼育委員会を担当してくださっていた先生であるということが救いでした。

（保護者への働きかけと協力）

4年生になって、まず保護者会があったんですが、保護者の方々を目の前に、子どもたちの話をたくさんしなければいけないんですが、それよりも、4年生がこんな理由で飼育をすることになったので、これからいろいろ保護者の方々にも協力をいただかなければいけないという話の方が、後で考えてみると比重が多かったようです。それほど私たちも飼育をすることを大きく受け止めていました。保護者の方々もみなさん理解を示してくださって、「子どもたちのために私たちががんばります」ということを言うことができました。

保護者の方々にも、飼育委員会の存続が危ぶまれるという話はあまりせずに、子どもたちのためになるという話を中心にいたしました。特に、夏期休業中や土曜日曜は、子どもたちだけで世話をさせるのが危ないという危惧もありまして、親子ボランティアという形をとったらどうかと考えて、保護者に依頼をしました。これは、エサをあげるということだけを目的にするのではなくて、家庭に帰って親子で飼育の話題を話し合うような機会をもってほしいとの投げかけをいたしました。最初はすごく不安で、自分の担任の子どもたちが担当する月は心配で、休日に出勤して飼育小屋を見回ったりとかもしましたが、結構予約がいっぱいになって、家族みんなできてくれたりとかしてくれて、不安も解消され、スタートとなりました。

（獣医師との連携）

資料の獣医師との連携というところを見てください。西東京市では、中川先生に特にお世話になっているんですが、獣医師さんとの連携がすごくよくて、これまで、獣医師さんにいろいろな点でお願いをしてきました。獣医師との連携の中にも、そこに1, 2, 3, 4, 5とあるように、いろいろな場面でサポートをしていただいているんですが、この写真は導入の授業の様子です。そこで、4月当初にいろいろなお話をさせていただきますし、飼育の心得とか、人間と動物の違いとか、動物を飼育することによって、こんなふうに優しい人になれるというようなお話を、とてもわかりやすくしていただきました。これが導入の場面です。この写真は、「おうちではどんな動物を飼っているの？」などと獣医師

さんが質問して、子どもたちが手を挙げています。

この写真は、ウサギの抱っこの仕方を教えていただいているところです。「どきどきしていたね」とか、「鼻がびくびく動いていたね」とか、子どもたちはウサギに順番に触れながら、いろいろな感想を話していました。人に対して優しくなれるとか、思いやりをもてるようになるというようなお話がとても印象的だったと、感想に書いていました。

サポートの中で、鳥インフルエンザについてということがありますが、これはまた後ほどお話しします。

(子どもたちの変容・総合への取り込み)

1組から順番に3組まで飼育当番が終わり、どのクラスでも子どもたちの変容がありました。先ほど計画的な飼育というお話もありましたが、これは、総合的な時間の中に、生命の尊重をテーマにした授業を位置づけたほうがいいのではないかとということから、途中で予定を変更し、昨年度1年間、カリキュラムの中に位置づけて取り組んでみました。

この写真は私のクラスなのですが、1か月の実践が終了したところで、せっかく、子どもたちがいろいろなことに気がついているので、これを友だちや、授業参観の中でお父さんやお母さん方に伝えてみようということになりました。このようなめあてをもたせて、6月の新聞づくりに取り組もうということになりました。お手元の資料の11ページにその様子がありますので、あとでご覧ください。

私は2組をもっていたんですが、1組の次が2組で、1組の当番が終わった連休明けにひよこが誕生したんです。そのときは1組の児童が担当だったんですが、1組の児童がこんなふうに書いています。

「日曜日、僕が行ってみると何かいつもと違って、何かピヨピヨという鳴き声でした。僕は『まさか』と思った。そして、小屋に入ってみると、そのまさかだった。すごく嬉しかった。ニワトリが鳴くとヒヨコモピヨピヨと鳴いていた。エサをニワトリにやるとまずヒヨコが食べていた。ヒヨコは生まれればかりなのに親と同じエサを食べるのはすごくびっくりした。」と書いてありました。

私のクラスの担当は、このヒヨコの誕生がスタートだったので、早くもこのことだけで児童たちは飼育にはまってしまうと、皆、一生懸命世話をしていました。

この写真は、1か月の飼育担当の時の経験をもとに、いろいろな出来事について話し合っているところです。また、新聞記事のアイデアをお互いに出し合っていて、新聞づくりに取り組んでいる様子です。そのなかで、ニワトリはミミズが大好きで、雛の2羽がミミズの引っ張り合いをして、それが綱引きみたいだったよ。とか、だったら、今度はミミズを2匹も3匹もあげればいよいよね。など、子どもたちからはいろいろな体験談が出されました。また、ヒヨコはふわふわしていると思ったらほわほわしていたよ。などと言った児童もいました。そういうことも記事に書かれてあったんですが、これを国語の勉強にも取り入れて、黒板に「ふわふわ」、次に「ほわほわ」を買って、「何か違うのかな？」と子どもたちに投げかけてみました。このときちょうど詩の勉強をしているときで、「ふわふわ」は、柔らかさを感じるんだけど、「ほわほわ」にすると温度を感じるって言うんですね。今度は、「ほ」がつくような温度をかんじる言葉は何かある？と聞くと、「ほんわか」とか、「ホット」とか、そんなふうに、国語の授業に無理なく発展できたりしました。

そのほかにも、ウサギがチャボの隣にすんでいるんですが、ウサギが喧嘩したときに、その声の大きさにびっくりして、チャボのお父さんが子どもを小屋に入れたとか、入り口を守っていたとか、私たち教員が見ていないところも見ていたりしていることがわかりました。それから、地域の嶋田さんが近くを通過して大声をかけたりますと、「静かにして！」などと、まるで親の気持ちになったように、子どもたちは振る舞うようになりました。そのようなことも、先ほどお話しした授業の中でいろいろ出し合いながら、家の人に伝えてみようということにつながっていくわけです。

新聞記事の資料がないのが申し訳ないんですが、新聞の中に今お話ししたような児童の様子を取り入れています。新聞記事には、写真が入っていたり、作文が貼り付けてあったり、4コマ漫画が書いてあったり、川柳のようなものを書いてあったり、いろいろな表現を子どもたちはしています。たとえば、川柳のようなものでは、「飼育小屋、汚いけれど楽しいな」とか、「アレックス、ヒヨコを守るお父さん」とか、そんなごくありふれた内容なんですけれども、ありふれたことが、すごく素晴らしいという体験を、子どもたちは書き留めています。

本校は、東京都の人権尊重教育推進校に指定されていることもあって、公開授業などをして、みなさんに見ていただいたりもしました。やはり、具体的に体験したからこそ、言葉が出てきたり、絵がすんなり描けたり、家の人との会話がはずんだというようなことがありました。とても価値のある体験学習なんだと思いました。

(総合的な学習への位置づけ)

そのような流れで、1学期2学期と過ぎていったわけですが、2学期の取り組みのお話をしたいと思います。お手元のレジュメの中で、3、「総合的な学習への位置づけ」というところを見てください。は、動物の飼育の年間を通しての**総合的な学習の時間全体の中での位置づけ**で、**が学習発表会**です。そこには、「ゾウ列車よはしれ 台本、演技への取り組み」としか書いてないんですが、**総合的な学習の時間の一貫として、学習発表会の時に劇をやったわけなんですから、単に劇をやればよいというのではなくて、子どもたちの飼育体験をもとにして台本づくりなどから取り組みました。**題名は、「ゾウ列車がやってきた」ですが、原作者の小出先生にも了解を得まして、子どもたちの飼育体験を台本のせりふの中にも入れてみました。子どもたちのせりふを少し紹介します。たとえば獣医師さんが登場する場面では、「いつも動物に何を**してあげたいか**だけじゃなくて、何を**してほしいのか**感じられるようになったら**最高ね**」とか、「動物を飼った人ほど優しくなれるでしょ？先生」とか、「動物の世話はたいへんだけど、自分が**優しくなれる気がした**」というようなせりふが、子どもたちの言葉として出てきました。それから、ゾウの飼育係がここでは出てくるんですけども、そのせりふも子どもたちから募集したところ、次のようにまとめました。「ゾウはエサをいっぱい食べるから、こちらの方もいっぱいするよ。小屋に入ったら**まず糞の様子を見る。健康状態が一目でわかるんだ**。そうそう、ゾウが**いいウンチを**すると**嬉しくなるんだ**。おまけににおいだってすぐ慣れる。そんなふうに思えたら、飼育係も一人前だよな。」というようなせりふを、子どもたちの意見から取り入れて、教師の方で、学芸会の台本をつくったというわけです。

(引き継ぎ集会)

次にレジュメの「引き継ぎ集会」のところをご覧ください。先ほどの桑原先生のお話でも、引き継ぎが大事だということでしたが、私たちも3学期になると次の学年に引き継ごうかということになり、やはり、引き継ぎ集会をしたらどうかということになりました。**子どもたちの1年間の中で、伝えたいことはたくさんあるんですが、すべて自分たちが体験したことなので、項目が決まると子どもたちはその台本をすぐに書くことができました。**ただお話しして伝えるだけではなくて、実際に演技しようとか、絵に描いて伝えようとか、実物のウサギを連れてきてやったらどうかなどという意見も出てきました。なぜかというと、先ほど劇のときにも、チャボが登場したんですね。劇の本番中に、とても演技力のあるチャボで、演技中にポトンと卵を産んだりしたんです。2日目も同じ劇をやるんですが、そのときには「卵を産んだ」というようなせりふをアドリブで入れたりしながら、劇をやりました。

この写真が、3学期の引き継ぎ集会の写真なんですけれども、左の方に**楽しかったことベスト3**と書いてありますね。**第3位が、動物をさわったこと、抱っこできたこと。第2位が、エサを切ったりあげたりしたこと。第1位は何だと思いませんか？これは、動物が健康だったとき、だと思えます。**そうということが子どもたちはすごく嬉しかったということです。実際に見に行くと動物たちが元気だとホッとしたりいうんですね。健康かどうかは、子どもたちはよくウンチの状態で見っていました。それから、ヒヨコの誕生の時なども、いつも見に行くと、チャボのウンチの中に細いウンチがあるんですけども、「これはヒヨコのウンチだ。間違いない」と言って、大事そうに持ってきたりだとか、「ヒヨコって飛びながらウンチするんだね」などと、**ウンチの話題には1年間事欠きませんでした。**というように、健康ならば嬉しい、ということが1位でした。これはすごく当たり前のことだけれども、すごく大事なことを勉強したね。と子どもたちに声をかけてあげました。

この写真は、野菜の切り方を説明しているところです。これを実際にやっている女の子の話なんですけど、**この子は動物の毛のアレルギー**があって、動物にさわらせないようにとお母さんから言われていました。でも、「私は野菜の切り方だったら説明できるよ」と言って、この役を買って出てくれたんです。また、話を聞いている3年生にも、「ウサギさんにやっごらん。食べるよ」とか説明していました。

次の写真は、3年生に抱っこの仕方を教えてあげたり、散歩のしかたを教えてあげたりしているところです。「このウサギの名前はアレックスっていうんだよ」とか、「イエローはこっちだよ」、「こういう性格だよ」というようなことを、3年生に教えています。それから、集会の時には、会場の周囲に絵を貼りました。図工の先生もとても協力的な方で、3学期の**図工の題材**として取り上げていただきました。

4月当初、獣医師の先生のお話を聞いた直後に描かせた絵が、こんな絵でした。ところが、3学期には同じ絵を描かせたんですが、すぐに描いてしまうんですね。そこで、図工の先生も「手紙風に、愛情たっぷりに1年間育ててきたエピソードなんか書いたらどう？」などとおっしゃってくれて、**すらす**

らと文の方も書けて、1枚1枚見るとすごく味があるものになりました。そして、子どもたちはすごく大事そうに家に持って帰りました。

この写真は、動物の写真を指して、1匹1匹の性格を説明しているところです。また、この子が持っている図は、ウサギたちの愛情関係を示しているものです。愛情関係のもつれなどもあったんですが、そういうエピソードも話してくれたりしました。

この写真も子どもが撮ったもので、私などが撮るよりもすごくいいアングルで撮っています。撮るときにも優しい声かけをしていました。

（鳥インフルエンザ）

この写真が、鳥インフルエンザが去年あったときのものです。対処のしかたについては、もちろん獣医師の先生にも指導を受けます。それによって飼育の方法が少し変わりましたので、その説明をしているところです。台本を自分たちで書いて、身支度をするとところから3年生に見せて、「鳥の命を守ってね」という言葉をかけていました。やはりそのときには、保護者の方からも不安であるというような言葉や、飼育に対する疑問なども寄せられていましたので、私たち学校側としても、すぐに獣医師さんと連携をとって、対処しました。中川先生もすぐにその日にとんできてくださりまして、私は体育の授業をやっているときだったんですが、「みんなに大事な話があります」ということで、体育の授業が飼育の授業に変わりました。そこで、中川先生が、「正しい知識をもって、冷静な対応をすることが大切です」というような、詳しい説明をしてくださったので、子どもたちも安心して、「家の人にそう話すよ」などと言っていました。中川先生も、「鳥さんたちは今元気なんだから、みんなで守って行ってね」とおっしゃると、子どもたちもうなずいていました。

この写真は、子どもたちが一生懸命に飼育に取り組んでいるということで、何件かの新聞社の取材があったときのものです。取材の記者の方にも、子どもたちは自信をもって答えていました。その写真（朝日小学生新聞）をお借りできたのです。そのときにおかしかったのは、子どもたちは新聞社の方に、「このニワトリはインフルエンザにはかからないよ」と言うんです。「だって、僕たちが世話しているんだから大丈夫」なんていうふうに自信をもって言っていました。

（3年生の見習い期間）

この飼育引き継ぎ習慣のあと、空白の1か月があるとまずいので、3年生のクラスと一緒に世話をする、見習い期間を設けました。そして、3月31日まで飼育を続けて、3年生にバトンタッチしました。今年の4年生もとても一生懸命に飼育していて、この暑い夏を乗り切りました。お母さんたちも一生懸命に協力してくれました。

このように、どこの学校でも行っているような飼育活動のお話をいたしました。

（最後に）

最後に、私も理論的な、科学的なことはわからないことも多いんですが、一応、1単元として、飼育活動を設定しました。そのなかで、以前、不登校ぎみだった子どもたちもクラスの中にはいたんですが、そういう子どもたちも飼育は大好きなところもありました。それから、辛いことがあったとき、「飼育小屋にいてもいい」などと言う子どももいたり、友だちづきあいがよくできない子が、休みの時の飼育を引き受けてくれたり、そのときに同じ飼育当番で来てくれた子と、遊ぶようになって、友達関係に広がりがあったという場面もありました。そのほかにも、国語の授業の題材として取り入れたり、図工などの題材にも飼育活動が使えたりすると思います。人権尊重という点もあるんですが、いろいろなドラマがありました。ドラマというのは時を選んでくれません。そして、動物も自分の思うとおりに動いてくれませんし、人も自分の思うとおりに動いてくれません。これは、他者を理解するということの原点なのではないかと思えます。そういうことを子どもたちは身をもって体験して、「動物たちは自分たちとは違う。だけど共生していかなければならない」ということを理解できた1年間だったのではないかと思えます。人権尊重教育を推進していることから考えても、飼育活動は意義のある活動だと思いました。そして、愛情だけではやっぱりだめで、科学的な目というもの、なぜ死産があったのかということや、なぜ怪我をしてしまったのか、というような目ももっていなければいけないんだということを感じました。あと10年くらいすると親になる子もいるかもしれません。そういうときにこのような活動はすごく役に立つものではないかと思えます。

もっとたくさんお話ししたいことがあります。つたない1年間の経験をお話ししました。今年の4年生の担任の先生もこの会場に来てくださっているんですが、このように学校が一丸となって取り組ん

でいます。このようなことは、ごく普通の公立の小学校では大事なのではないかと思います。以上で終わります。 （注：図表・映像は掲載してありません）